

海外調査報告書

1 期日

令和7年7月22日（火）から令和7年7月28日（月）まで

2 調査目的

ボールパーク整備にあたって先進地である米国の球場を視察し、地域コミュニティへの関わりや周辺まちづくりなど、ファーム施設の整備によって実現したい目標を明確化し、君津市とマリーンズの今後の取組みに関する知見を揃えることを目的とする。

また、今後策定する基本計画やその先の基本設計・実施設計を見越して、施設のイメージを共有すると共に具現化すべきコンセプトを補強し、ファーム施設として、実装すべき機能、施設要件、配置計画等の示唆を獲得する。

3 調査先

米国内のプロ野球施設及び参考施設 7施設

4 調査者

石井市長、ボールパーク推進課 入江、井上、戎

5 経費（参加者4名分）

・渡航費（羽田空港～米国）	1,680,280 円
・交通費（米国内飛行機）	544,205 円
・交通費（米国内バス）	316,403 円
・宿泊費	675,411 円
・コーディネート費（施設案内・通訳料等）	1,678,853 円
・その他諸経費	228,931 円
（電子渡航認証費・海外保険費等）	
合計	5,124,083 円

6 観察先及び結果概要

(1) 調査先1 「IMGアカデミー」

◇施設概要

中高一貫のスポーツ私立校 生徒数約 1,000 名

- ・1978年にテニススクールとして創設。以降、対象をゴルフ、野球、バスケットボール、アメリカンフットボールなどに拡大
- ・2.4 平方キロメートル（東京ドーム 51.3 個分）の広大な敷地にキャンパスを展開
- ・卒業生のうち 95%は大学進学、プロ選手になるのは 1~2%程度
- ・日本人卒業生として、錦織圭選手や坂本怜選手（テニス）といった有名選手を輩出している
- ・1987年に IMG が買収。現在は、2023年に投資ファンド BPEA EQT が買収

◇調査結果

- ・多様なスポーツ種目ごとに生徒の動線が確保されていた。
- ・野球場 6 面、テニスコート 55 面、サッカー場 16 面、バスケットボールコート 4 面や、トレーニングルームなどが完備されており、育成環境が大変充実していた。
- ・スポーツだけでなく、勉学にも力を入れており進学を見据えた人材育成に取り組んでいた。

◇所感

- ・プロスポーツの世界は厳しく、育成環境の整った本校でもプロ選手になれるのはごく一部であることからも、プロのレベルを維持することの大変さを知れた。
- ・生徒たちは多くの時間をトレーニングに費やしていることから、ボールパークにもプロ選手に対応したトレーニング施設の必要性を感じた。

(2) 調査先2 「プレーヤー・デベロップメント・コンプレックス」

◇施設概要

メジャーリーグ・トロントブルージェイズ及びその傘下マイナー球団のキャンプ施設

- ・2021年建設、建設費は約111億円
- ・メジャー選手、マイナー選手のための施設
- ・0.2平方キロメートルの敷地に6つのフルフィールド、2つのハーフフィールド、12の屋根付きバッティングケージ、屋根付き練習場などが完備。

◇調査結果

- ・クラブハウスを中心に各施設が配置されていた。
- ・クラブハウス内もメジャー選手とマイナー選手とでは完全に動線が分けられていた。
- ・選手強化のための様々な施設や設備が整備されていた。
- ・内装も選手のモチベーションが上がる工夫があった。
- ・将来に向けて拡張性を確保した余裕ある室内設計であった。

◇所感

- ・夏場は大変気温も高い環境にあるため、多くの練習施設には屋根が設けられていた。日本においても気温が非常に高いことから、暑熱対策の必要性を感じることができた。
- ・クラブハウスでは、1年のうち数か月間はメジャー選手とマイナー選手の利用が重なるが、双方が交わらないように導線が区分されており、施設設計において参考になった。

(3) 調査先3「コベナント・ヘルス・パーク」

◇施設概要

メジャーリーグ・カブス傘下のAA球団であるノックスビル・スマーキーズの野球場

- ・2025年建設、建設費約169億円
- ・座席数 6,355席

◇調査結果

- ・官民連携プロジェクトとして建設。自治体が1/2を負担。
- ・スタジアムを囲むコンコースを設置。コンコース内には、ショップやバー、キッズゾーンなどを設置しており、年齢を問わず来場者を楽しませる工夫があった。

- ・隣接のマンションでは、野球観戦もできるマンションとして付加価値をつけて販売するビジネスモデルであった。
- ・スタジアムにはラウンジが設けられており、ラウンジを目的に来場される方も多くいる様子であった。

◇所感

- ・コンコースには、試合中にも多くの来場者がおり野球観戦だけではなく、雰囲気を楽しんでいた。また、コンコースからはどこからでもグランドを観ることができるようにになっており、非常に参考になった。
- ・大人から子どもまでどの年齢層も楽しませる工夫があり、賑わい創出の手法として参考になった。

(4) 調査先4 「ファースト・ホライゾン・パーク」

◇施設概要

メジャーリーグ・ブルワーズ傘下のAAA球団であるナッシュビル・サウンズの野球場

- ・2015年建設、建設費約110億円
- ・座席数 8,500席

◇調査結果

- ・旧球場の老朽化に伴い官民連携プロジェクトとして建設。
- ・グランドはサッカーやコンサートで使用できるようにピッチャーマウンドに昇降機能を実装していた。
- ・「音楽の街」を象徴するようにスコアボードがギターの形をしており、地域の歴史に基づいたデザインであった。
- ・スタジアムを囲むコンコースを設置。コンコース内には、ショップやバー、キッズゾーンなどを設置しており、年齢を問わず来場者を楽しませる工夫があった。
- ・隣接のマンションでは、野球観戦もできるマンションとして付加価値をつけて販売するビジネスモデルであった。
- ・スタジアムにはラウンジが設けられており、多くの人で賑わっておりラウンジを目的に来場される方も多くいる様子であった。

◇所感

- ・ラウンジには、友人などと会話を楽しむ方が多く、球場がコミュニティの形成に寄与している様子が伺えた。
- ・球場に隣接しているマンションからは自宅にいながら野球観戦ができることを売りにしており、周辺開発の一つのモデルとして参考になった。

(5) 調査先5「ボールパーク・アット・アメリカ・ファースト・スクエア」

◇施設概要

メジャーリーグ・エンゼルス傘下のAAA球団であるソルトレイク・ビーズの野球場

- ・2025年建設、建設費約207億円

- ・座席数 6,500席

◇調査結果

- ・スタジアムを核に新たなまちづくりを行う最前線であった。
- ・スタジアムには、商業施設や屋外劇場、高級マンションが隣接しており、将来的には2万人規模のまちを目指している。
- ・スタジアムには、マイナーリーグでは最大規模の大型ビジョンが設けられており、定期的に映画鑑賞会を開催するなど多くのイベントを行っている。
- ・ブルペンなどの様子を入場せずとも見られる設計により、プロスポーツを身近に感じられる取組みが実施されていた。
- ・コンコースには、芝生エリアやキッズエリアがあり、年齢を問わず来場者を楽しませる工夫があった。
- ・スタジアムにはラウンジが設けられており、多くの人が賑わっておりラウンジを目的に来場される方も多くいる様子であった。

◇所感

- ・3か月前に開設された非常に新しい球場であり、住民と球場との垣根が低く地域との一体性の高い球場であった。球場横の通路からも選手の練習風景を見ることができる設計であり、プロ野球を感じられる取組みなど参考になった。
- ・大型ビジョンの活用例など今後のイベント企画の参考になった。

(6) 調査先 6 「クラーケン・コミュニティ・アイスプレックス」

◇施設概要

プロアイスホッケーチームであるシアトル・クラーケンのアイスホッケー場

- ・2021年建設、建設費約87億円
- ・リンク数 3面

◇調査結果

- ・プロチームの練習場であるが市民にも開放されている。
- ・プロチームの練習風景をいつでも見学することが可能な設計であった。
- ・施設として敷居が低く地域住民が気軽に立ち寄れる様子であった。
- ・周辺開発として、マンションやアパート、商業施設を建設している最中であった。

◇所感

- ・アイスホッケー場のため屋内型の施設であり、内装に木を効果的に使用し温かみの感じられる落ち着いた雰囲気であった。また、当施設でも“観るスポーツ”的な取組みとして、プロの練習風景をいつでも観ることができる設計をしており参考になった。

(7) 調査先 7 「クライメット・プレッジ・アリーナ」

◇施設概要

女子プロバスケットボールチームであるシアトル・ストームのホームアリーナ

- ・2021年建設、建設費約1,270億円
- ・座席数 18,000席

◇調査結果

- ・環境対策の一環として、既存のアリーナの一部を再利用して建設された。
- ・再生可能エネルギーの利用の他、来場者がアリーナに来るまでの環境負荷も視野に入れた取組みが行われていた。

◇所感

- ・建設時から環境に配慮した取組みを実施しており、環境負荷を考慮した取組みは非常に参考になった。

※記録写真については、「米国視察レポート」をご覧ください。

7 まとめ

今回の米国調査を通じ、球場が単なる競技施設にとどまらず、地域コミュニティの核として多様な役割を果たしていることを強く実感した。観客を飽きさせないエンターテインメント性、ファンとの距離の近さなどは、シビックプライドの醸成に寄与するものだと感じることができた。

また、球場の設計面では、規模を抑えつつも機能性・快適性を両立させた設計思想が印象的であり、観戦環境や動線計画など、限られたスペースを最大限に活かす工夫が随所に見られた。これらは、本市のボールパーク整備においても、大いに参考となるものである。

今回の視察を通じて、ファーム施設がまちづくりや地域活性化に果たす役割の大きさを改めて認識した。今後は、現地で得た知見をもとに、今年度策定する整備基本計画に反映させるとともに、市民に愛され、地域に根ざしたボールパーク事業に取り組んでいきたい。

【参考】

